

指定管理者評価シート

事業名	札幌芸術の森等運営管理費	所管課(電話番号)	市民文化局文化部文化振興課(211-2261)
-----	--------------	-----------	-------------------------

I 基本情報

1 施設の概要			
名称	札幌芸術の森 本郷新記念札幌彫刻美術館	所在地	【札幌芸術の森】 南区芸術の森2丁目 【札幌彫刻美術館】 中央区宮の森4条12丁目
開設時期	【札幌芸術の森】 昭和61年7月 【札幌彫刻美術館】 昭和56年6月	延床面積	【札幌芸術の森】 389,653.82㎡(敷地面積) 【札幌彫刻美術館】 本館374.10㎡、記念館437.07㎡
目的	<p>【札幌芸術の森】 芸術文化都市さっぽろのシンボルとして、個性ある新しい札幌文化を育てることを目指し、「制作・研修機能」、「情報・交流機能」、「鑑賞・発表機能」を持つ新しい芸術文化の場を創出し、札幌が誇りとする豊かな大自然と、都市、芸術、文化が調和した環境の形成を目的とする。</p> <p>【札幌彫刻美術館】 本市ゆかりの彫刻家である本郷新の業績を顕彰するとともに、本市における彫刻を中心とした美術の振興を図り、市民の文化芸術活動の発展に寄与することを目的とする。</p>		
事業概要	<p>【札幌芸術の森】 札幌芸術の森園内各施設の管理運営、札幌芸術の森園内各施設を活用した各種芸術文化振興のための主催事業の実施。</p> <p>【札幌彫刻美術館】 美術に関する展覧会及び美術振興のための主催事業の実施並びに施設の管理運営。</p>		
主要施設	<p>【札幌芸術の森】 芸術の森センター、札幌芸術の森野外美術館、佐藤忠良記念子どもアトリエ、札幌芸術の森美術館、アートホール、工芸館、各種工房、各種アトリエ、有島武郎旧邸、野外ステージ等</p> <p>【札幌彫刻美術館】 本館：ギャラリー、展示室1～5、研修室、屋外展示スペース 記念館：展示室1～4、ロビー</p>		
2 指定管理者			
名称	公益財団法人札幌市芸術文化財団		
指定期間	平成30年4月1日～令和5年3月31日		
募集方法	<p>非公募</p> <p>非公募の場合、その理由：札幌芸術の森は札幌市における文化芸術振興の中核となる施設の1つであり、指定管理者には施設の特性を活かした多様な事業を継続して実施するための専門的知識や経験、幅広いネットワークが必要であるとともに、管理運営に当たっては、長期的な視野に立った継続的な事業運営や人材育成、ノウハウの蓄積などが特に必要となるほか、施設における事業内容の企画立案等を本市と指定管理者とが一体となって行う必要があることなどから、非公募とした。</p> <p>彫刻美術館は、(財)札幌彫刻美術館と(財)札幌市芸術文化財団との統合の経緯から、芸術の森との一体的管理が必要であり、団体と施設の関係が密接不可分にあること、また、施設における事業内容の企画立案等を本市と指定管理者とが一体となって行う必要があることなどから、非公募とした。</p>		
指定単位	<p>施設数：2施設</p> <p>複数施設を一括指定の場合、その理由：施設の設置目的が類似し、事業領域が関連している札幌芸術の森と札幌彫刻美術館を一体的に管理していくことにより、管理面での経費節減効果が期待できるとともに、両施設の連携を更に深め、より魅力的な事業や、美術の普及振興を図ることが可能であることから、札幌芸術の森と彫刻美術館を一括し管理している。</p>		
業務の範囲	施設維持管理業務、貸館業務(利用料金制度)、施設における事業の計画及び実施に関する業務		
3 評価単位	<p>施設数：2施設</p> <p>複数施設を一括評価の場合、その理由：2施設を一体的に管理しており、指定管理費についても両施設で一体となっていることから、一括評価としている。</p>		

II 元年度管理業務等の検証

項目	実施状況	指定管理者の自己評価	所管局の評価								
1 業務の要求水準達成度											
(1)統括管理業務	<p>▽ 管理運営に係る基本方針の策定</p> <p>【札幌芸術の森】 芸術文化都市さっぽろのシンボルとして、個性ある新しい札幌文化を育てることを目指し、「制作・研修機能」、「情報・交流機能」、「鑑賞・発表機能」を持つ新しい芸術文化の場を創出し、札幌が誇りとする豊かな大自然と、都市、芸術、文化が調和した環境の形成を目的とするため、次の5つの基本方針を策定している。</p> <p>①札幌芸術の森の特性を活かした魅力ある多彩な事業の実施 ②芸術を担う人材育成と芸術を通じた人づくり ③自然と調和した事業展開と場づくり ④人と人が出会い、つながる交流の場としての機能の充実 ⑤安全で利用しやすい施設づくり</p> <p>【本郷新記念札幌彫刻美術館】 札幌出身の彫刻家・本郷新の顕彰及び彫刻を中心とした美術の振興を図り、本郷新の残した作品・施設や生前の意思を引き継ぎつつ、幅広い年齢層を対象に美術館の運営をさらに進展させるため、次の4つの基本方針を策定している。</p> <p>①本郷新の顕彰及び関連情報の収集・保存・公開 ②彫刻を中心とした芸術文化の魅力を積極的に発信 ③利用者の拡大と次代の担い手の育成 ④市民に開かれ、立地環境を活かした施設運営</p> <p>▽ 平等利用に係る方針等の策定と取組実績</p> <p>【札幌芸術の森】 利用受付は、利用者間の公平を図る観点から、受付開始日、締切日及び開始・終了時刻を定めているほか、受付は先着順とし、全ての利用者に対して公平な受付業務を行った。 受付の流れ、関連規則、施設の空き状況についても、分かりやすく十分に説明をするほか、利用者に向けた施設利用のしおりに作成する方針を固め、作成に取り掛かることとなった。</p> <p>【本郷新記念札幌彫刻美術館】 平等利用を確保するために、その方針及び取組項目を検討するとともに、研修会等を通じて、留意事項等について職員相互に基本的な考え方や心構えを確認した。</p>	<p>第4期指定管理期間において、札幌芸術の森の設置目的を実現するための基本方針とすることができた。</p> <p>本郷新記念札幌彫刻美術館の設置目的を実現するための基本方針とすることができた。</p> <p>関連規則に従い、利用者への公平性を保ちながら受付業務を行うことができた。</p> <p>関連規則に従い、利用者への公平性を保ちながら受付業務を行うことができた。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>両施設とも、運営協議会や来館者アンケートによる意見を踏まえた業務改善や事業展開を図っており、サービスの向上に努めている。また、様々な節電等対策や環境に配慮した取組を行っており、本市の要求水準を満たす適切な管理が行われている。</p>	A	B	C	D				
A	B	C	D								

▽ 地球温暖化対策及び環境配慮の推進

【札幌芸術の森】

「札幌市生活環境の確保に関する条例」に基づき、不要な電気・水・ガス・灯油等の節約に努め、二酸化炭素排出の抑制に取り組んだ。

▼ 冷暖房について

昼休み時間や15時以降の冷暖房運転をカットし、燃料の節約に努めた。クールビズ・ウォームビズを促進した。

▼ 節電について

・従来より実施しているセンター事務所の照度50%設定やセンター、アートホールロビー等の照明設備間引き点灯を継続して実施した。事務所については休憩時間や不在時の消灯を徹底する等、更なる節電に努めた。

・従来より実施している、野外美術館シンボル彫刻の前の人工滝揚水ポンプの週末限定運転を引き続き実施するなど、消費電力の削減を図った。

・電力需要がひっ迫する野外ステージの大型イベントの開催時に自家発電を用意し、電力デマンドのピークカットに努めた。

・余分な電化製品のコンセントを抜く等、待機電源の削減に努めた。

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

「札幌市生活環境の確保に関する条例」に基づき、不要な電気の使用を抑え、水、灯油、ガス等の節約に努め、二酸化炭素排出量の低減に努めた。

省エネについては人工滝揚水ポンプの週末限定運転や照明設備の間引き点灯、冷暖房の一部カットなどの対策を行い、特に電力は、日頃から使用量の管理に努めた。

暖房器具・照明等の使用を抑え、節電に努めることができた。

▽ 管理運営組織の確立(責任者の配置、組織整備、従事者の確保・配置、人材育成)

【札幌芸術の森】

【札幌芸術の森】

▼ 管理業務の一層の効率的運用、中長期での組織運営のあり方などについて検討し、必要に応じた適切な採用・適正部署への配置を行った。

▼ 統括責任者として芸術の森事業部長を、職務代理者として芸術の森事業部管理課長を配置している。

▼ 芸術の森美術館に、学芸員の資格を有する職員6人を配置している。

▼ 各職員の習熟度に応じた計画的な研修を行い、スキルアップに努めた。

《4月》

・新規採用職員研修 個人情報保護・セクシャルハラスメント防止研修

・新規採用職員研修 接遇研修(ビジネスマナー)

・会計セミナー

《8・1月》

・年金とナイスライフセミナー

《10・11月》

・パソコン研修

《11月》

・広報セミナー

《12月》

・新任係長職研修

《2～3月》

・コンプライアンス研修

・管理職マネジメント研修

配置計画に関しては、職員との面談等を通じ適性を考慮しながら適切な職員配置を行った。

業務の効率化に加え、職員の業務に対する意識向上の動機づけを図ることができた。

また、前年度に引き続き、全職員必須研修として、コンプライアンス研修を行うなど、服務規律の確保について職員の意識向上に努めた。

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

▼ 統括責任者として彫刻美術館課長を、職務代理者として彫刻美術館業務係長を配置しているほか、業務分担、連絡系統等を定めた。

▼ 本郷新記念札幌彫刻美術館に、学芸員の資格を有する職員3人を配置している。

▼ 各職員の習熟度に応じた計画的な研修を行い、スキルアップに努めた。札幌芸術の森との合同で職員研修を行うほか、館独自で現場研修や各展覧会ごとにパート職員を含めた研修を実施した。

《4月》

・現場研修「砂澤ビッキー樹ー」展

《6月》

・現場研修「近代日本彫刻のあけぼのー高村光雲・光太郎、荻原守衛を通してー」

《7月》

・現場研修「わくわく★アートスクール2019作品展」

《8月》

・現場研修「フィン・ユール展」

《9月》

・現場研修「みる、つくる、かんがえるー縄文土偶からテオ・ヤンセンまでー」

《10月》

・現場研修 防災・救急処置

《11月》

現場研修「本郷新と無辜の民」展

《12月》

・現場研修「現代美術に見る立体表現のさまざま」

《2月》

・現場研修「所蔵品展」

《2月、3月》

・コンプライアンス研修

・管理職マネジメント研修

▼ 事業内容や運営の実務については、美術館内の会議を通して職員間での共通理解を図った。

▽ 管理水準の維持向上に向けた取組

【札幌芸術の森】

▼ 財団内LANによるグループウェアソフトを活用し、事業部内及び財団全体の職員間の情報共有を行った。

▼ 園内に点在する施設間においても、来園者と接する機会が多い常駐委託業者(受付、警備、施設設備管理、清掃)と職員間で、上記グループウェアソフトや内線、携帯電話による連絡網もあわせて活用した。

▼ 安定した管理体制と来園者へのサービス向上を目指し、職員と常駐委託業者が事故や問題点、今後の予定などお客様対応に必要な情報共有や意見交換を行うための会議を毎週、実施した。

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

▼ 財団内LANによるグループウェアソフトを活用し、美術館内及び財団全体での情報共有を行った。

配置計画に関しては、職員との面談等を通じ適性を考慮しながら適切な職員配置を行った。

各職員の資質の向上のため、機会をとらえて研修会や講習会への参加を進めるとともに、実務を通じた現任訓練も必要の都度実施した。

美術館内の会議を適切に実施し、事業内容や各担当業務に関する情報の共有を図った。

事業部間や事業部内での情報共有をスムーズに行うことで、来園者へのよりきめ細かな対応を行うことができた。

事業部間や事業部内での情報共有をスムーズに行うことで、来館者へのよりきめ細かな対応を行うことができた。

▽ 第三者に対する委託業務等の管理(業務の適正確保、受託者への適切監督、履行確認)

【札幌芸術の森】

▼ 計画書、仕様書に基づき、清掃、庭園管理等の業務を専門業者へ再委託し、適正な業務遂行を実施した。

▼ 第三者に対する委託に関して、入札等による適切な契約を行うことにより、経費節減と業務内容の充実と向上に努めた。なお、一部の経費節減等が期待できる業務については、複数年契約を締結した。

▼ 受託者の業務については立会を行うとともに作業完了報告書の確認と業務内容の検査を実施し、適正な業務を遂行させることができた。

規程類に基づき、適切な契約を行った。

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

▼ 計画書、仕様書に基づき、庭園管理等の業務を専門業者へ再委託し、適正な業務遂行を実施した。

規程類に基づき、適切な契約を行った。

▽ 札幌市及び関係機関との連絡調整(運営協議会等の開催)

【札幌芸術の森】

▼ 札幌芸術の森施設運営協議会の開催

開催回	協議・報告内容
第1回 6月26日	・平成30年度管理運営業務の報告について(総入園者数、アンケート結果) ・令和元年度管理運営業務の経過報告について(施設利用状況、主催事業)
第2回 10月3日	・令和元年度管理運営業務の経過報告について(施設利用状況、主催事業)
第3回 1月16日	・令和元年度管理運営業務の経過報告について(施設利用状況、主催事業) ・主催事業体験(木エクラフト体験)
第4回 3月25日 ※書面開催	・令和元年度管理運営業務の経過報告について(施設利用状況、主催事業) ・次年度事業計画について

当施設の運営について、主催事業や貸施設、広報等の多岐にわたり、様々な分野の方々からご意見をいただいた。

令和元年度は、運営協議会メンバーに、開催中の美術館展覧会の観覧や、通年実施しているクラフトワークショップを体験してもらうことで、芸術の森の事業への一層の理解を促し、実効性のある協議を行うことができた。

<協議会メンバー>

- ・地域：芸術の森地区まちづくりセンター所長
- ・利用者：施設利用者
- ・有識者：放送局部長、新聞社部長、旅行会社担当課長、札幌市立大学教授、広告代理店役員
- ・ボランティア団体：野外美術館解説ボランティア
- ・札幌市：市民文化局文化部長
- ・指定管理者：芸術の森事業部長

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

▼本郷新記念札幌彫刻美術館施設運営協議会の開催

開催回	協議・報告内容
第1回 6月8日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度～令和4年度運営方針 ・令和元年度事業計画 ・意見交換
第2回 9月6日	<ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度第1回理事会報告 ・令和元年度事業経過報告 ・入館者アンケート集計 ・各種規程、要綱、マニュアル等の策定 ・意見交換
第3回 12月6日	<ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度事業経過報告 ・令和2年度事業の企画状況 ・意見交換
第4回 3月13日 ※書面開催	<ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度事業報告 ・入館者アンケート集計 ・令和2年度主催事業予定 ・意見聴取
<協議会メンバー> <ul style="list-style-type: none"> ・地域：宮の森まちづくりセンター所長 ・利用者団体：札幌市立大倉山小学校PTA副会長 ・地元自治会：宮の森明和会会長 ・学識経験者：札幌市立三角山小学校長 ・財団評議員：彫刻家 ・札幌市：市民文化局文化部文化振興課長 ・指定管理者：彫刻美術館館長(芸術の森事業部彫刻美術館課長) 	

当施設の運営について、多岐にわたり様々なご意見をいただいた。意見交換を活発に行い、地域利用者、専門家の意見、評価を直接聞くことができた。いただいた意見を広報、事業企画に積極的に活かした。

▽ 財務(資金管理、現金の適正管理)

【札幌芸術の森】

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

▼ 資金管理については、指定管理業務、自主事業ごとの区分経理を実施しており、公認会計士による外部会計監査を導入している。また、内部監査やセルフモニタリングにより、当財団管理施設をまたいだ相互的なチェック体制を導入している。

▼ 現金等の取扱いについては、現金取扱要綱を整備しており、出納員及び分任出納員による一元管理を行っている。また、複数職員でのチェックを行うことで、事故防止に努めた。

資金管理、現金等の取扱いについては、管理体制を整備することにより、チェック機能を確保した。

<p>▽ 要望・苦情対応</p> <p>【札幌芸術の森】</p> <p>▼ お客様からの要望・苦情については、速やかに担当課及び関連部署の職員間で、文書や財団内LANによるグループウェアソフト等で情報共有を図り、対応確認を行った。指摘事項に関しては、担当者間で協議し、利用者の利便性を優先した迅速な対応に努めた。</p> <p>▼ 札幌芸術の森ホームページから送信されるお問い合わせについても、関係部署で情報共有を図り、回答した。</p> <p>【本郷新記念札幌彫刻美術館】</p> <p>▼ 要望・苦情のあった際は職員間で情報を共有し、迅速に検討・対応した。</p> <p>▼ 代表メールアドレス宛に届いた問い合わせに対しても、情報共有を図り、迅速に回答した。</p> <p>▽ 記録・モニタリング・報告・評価(記録、セルフモニタリングの実施、事業報告、札幌市の検査等への対応、自己評価の実施)</p> <p>【札幌芸術の森】 【本郷新記念札幌彫刻美術館】</p> <p>▼ 指定管理業務に関する下記の記録・帳簿等については適切に整備保管した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理業務に関する諸規程 ・文書管理簿 ・各年度の事業計画及び事業報告書 ・収支予算・決算に関する書類 ・金銭出納に関する帳簿 ・物品の受払いに関する帳簿 ・各種業務に関する記録書類及び札幌市が必要と認める書類 <p>▼ セルフモニタリングについては、来園者、利用者の満足度を測定するため、アンケート調査を実施した。また、セルフモニタリングや業務・財務検査を通して管理運営に関する自己チェックを実施した。</p> <p>▼ 札幌市による施設の管理運営に関する検査等へは誠実に対応した。</p> <p>▼ 自己評価の実施については、施設の利用状況、主催・自主事業の実施状況等について、毎年度、事業報告書と合わせて札幌市に提出する。</p>	<p>来園者からの要望に対しては、真摯に受け止め、可能なものは迅速に改善するよう努めた。</p> <p>来館者からの苦情・要望に対しては、職員間で情報を共有し、適切に対応することができた。</p> <p>業務実績の整備・保管を適切に行うことができた。</p> <p>施設運営の維持・改善のため、来園者にアンケート調査を実施し、寄せられたご意見については、速やかに検討し、可能な限り改善した。</p> <p>施設管理に関する市民からの要望・苦情については、誠実に対応し、札幌市と情報を共有した。</p>
--	--

<p>(2)労働関係法令遵守、雇用環境維持向上</p>	<p>▽ 労働関係法令遵守、雇用環境維持向上</p> <p>【札幌芸術の森】 【本郷新記念札幌彫刻美術館】</p> <p>▼ 適正な内容で36協定を締結したほか、雇用環境の維持向上のため、関係法令に基づき財団諸規則等の見直しをおこない、労働基準監督署に届け出た。</p> <p>▼ 給与の額や支給方法等の雇用条件については、財団の例規として、職員、契約職員、パート職員の各々について就業規則を定めているほか、職員については別途給与規程を制定し明示している。これらを変更する場合には職員の過半数を代表する者の意見を聴取し、行政官庁への届出を行っている。また、賃金台帳など法定帳簿等も整備している。</p> <p>▼ 就業規則を含む例規集は、グループウェアにより、常に各職員が閲覧可能な状態としている。</p> <p>▼ 毎月の給与の計算や社会保険・労働保険関係の各種手続き等は、財団の総務課が社会保険労務士事務所に委託しており、労働関係法令改正への対応についても、社会保険労務士と相談して行っている。</p> <p>▼ 労働安全衛生法及び当財団衛生委員会要綱に基づき衛生委員会を開催し、衛生管理者、産業医とともに労働災害の防止、職員の健康管理及び職場環境の向上に努めている。</p> <p>▼ 産業医の選任のほか、顧問弁護士も導入しており、これらの専門家による、心身の健康面、雇用、仕事以外の相談を含めて個別相談にも応じる体制を採っている。また、各種ハラスメント対応としての専用相談窓口を設けている。</p>	<p>36協定の内容を遵守するよう、長時間労働の状況把握及び業務配分等に取り組んでいる。</p> <p>雇用環境については、繁忙期と閑散期があることを踏まえ、業務の効率化や人員体制の補強を行うなど、環境を整えるよう配慮している。</p> <p>また、札幌市ワーク・ライフ・バランスplus企業(ステップ1)として認証を受けているほか、6年計画で策定した一般事業主行動計画を現在遂行中である。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4">労働関係法令に則した運用がなされているものの、一部に長時間労働の実態が認められることから、業務効率化や人員体制の補強など、雇用環境の向上に引き続き取り組んでいく必要がある。</td> </tr> <tr> <td colspan="4">なお、財団全体として雇用環境の維持向上を図るため、さまざまな取組を進めており、本市の要求水準を満たす適切な管理運営が行われている。</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	労働関係法令に則した運用がなされているものの、一部に長時間労働の実態が認められることから、業務効率化や人員体制の補強など、雇用環境の向上に引き続き取り組んでいく必要がある。				なお、財団全体として雇用環境の維持向上を図るため、さまざまな取組を進めており、本市の要求水準を満たす適切な管理運営が行われている。			
A	B	C	D												
労働関係法令に則した運用がなされているものの、一部に長時間労働の実態が認められることから、業務効率化や人員体制の補強など、雇用環境の向上に引き続き取り組んでいく必要がある。															
なお、財団全体として雇用環境の維持向上を図るため、さまざまな取組を進めており、本市の要求水準を満たす適切な管理運営が行われている。															

(3)施設・設備等の維持管理業務	<p>▽ 総括的事項(利用者の安全確保、市民サービス向上への配慮、連絡体制確保、保険加入)</p> <p>【札幌芸術の森】</p> <p>▼ 利用者の安全を確保するため、園内の施設、設備の定期的な点検・維持管理を行っている。しかしながら、2019年4月に常駐業者の作業車両から積み荷が落下し、園内を散策中の市民にケガを負わせる事故が発生した。これを受け、職員は元より、常駐の設備管理員や警備員、清掃員ならびに出入りするその他委託業者等に対して、来園者への安全配慮の徹底を依頼し、事故等の発生の事前回避に努めた。また、週に1回の施設担当職員と常駐委託業者をメンバーとした施設連絡会議を実施し、施設管理に係る情報共有を行った。</p> <p>▼ 園内へのヒグマ進入防止のため、園の外周に電気柵を設置し対策を講じている。電気柵の維持管理については、専門業者による早期の設置と定期点検を行うほか、職員による目視点検を日常的に行い、柵の維持や異変の早期発見に注力した。市内熊出没情報を注視し、周辺で熊の出没があった場合は、警備巡回の頻度を増やし来園者が安心して利用できる環境の確保に努めた。</p> <p>▼ 損害賠償保険については、継続して、仕様に適合したものに加入した。</p> <p>▼ 冬季は、除雪業者と連携をはかり、急な天候の変化などにも迅速かつ細やかに対応し、来園者の利便性が損なわれないように、また安全の確保に努めた。車道、園路が凍結している時には砂まきや融雪剤の散布等をこまめに行うとともに注意喚起の掲示を増やし、転倒や事故の防止に努めた。</p> <p>▼ 拾得物の取扱いについては、所轄の警察署の助言を得て改訂した拾得物取扱マニュアルにより適切に取り扱っている。また、落とし主に速やかに返却されるよう、拾得物の情報を職員及びスタッフ間でタイムリーに共有するとともに、ホームページに落とし物に関する特設ページを設けた。</p> <p>【本郷新記念札幌彫刻美術館】</p> <p>▼ 利用者等の安全確保を第一に対応した。特に、冬期間は転倒防止のための砂まき、雪庇等の落雪事故防止の表示、カラーコーンの設置等を行った。</p> <p>▼ 建物の構造上段差が多いため、特に高齢者・障がいのある人に対しては声掛けなどの配慮を行った。</p> <p>▼ 庭園に設置している9点の野外彫刻のうち、ブロンズ彫刻8点の仮固定が完了(H29年度までに7点は仮固定済み)し、盗難・転倒事故の未然防止を図った。残る1点の野外彫刻は重量過大のコンクリート作品のため、2018年11月の作品転倒後は平置きのまま安置している。</p> <p>▼ 損害賠償保険は継続して、仕様に適合したものに加入した。</p>	<p>利用者の快適性、安全性を維持するため、各業者と連携を密にしながら適正な維持管理ができた。園内において利用者、職員、委託業者等が被害者となる事故が発生することがないように、今回の事故の原因を調査し、具体的な注意喚起と防止策を講じながら業務にあたっている。</p> <p>利用者の安全性、快適性を維持するため、各業者と連携を密にしながら適正な維持管理ができた。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>両施設とも、施設・設備等の維持管理、修繕業務については、本市の要求水準を満たす適切な管理運営が行われている。</p> <p>札幌芸術の森においては、利用者等の安全確保を徹底し、事故の再発防止に努められたい。</p>	A	B	C	D				
A	B	C	D								

<p>▽ 施設・設備等の維持管理(清掃、警備、保守点検、修繕、備品管理、駐車場管理、緑地管理等)</p> <p>【札幌芸術の森】</p> <p>▼ 施設維持管理にあたっては、来園者の安全・快適性を確保して適切に行った。適切な管理を行うため業務委託項目の見直しを行い、清掃や警備等、施設管理に関わる15業務、電気・空調設備等の建物保守関係の20業務の他、野外ステージや美術館に関わる管理業務等17業務、合計52業務について第三者委託により実施した。</p> <p>▼ 主な修繕について</p> <p>①アリーナ吊物ボタン手動昇降ウインチ交換 ②野外美術館雨水ポンプ配管工事 ③木工房・彫刻アトリエ消防設備修繕工事 ④美術館裏車道舗装補修工事 ⑤芸術の森センター授乳室設置工事 ⑥美術館第2収蔵庫 排煙濃度計交換工事</p> <p>▼野外美術館の作品はその設置環境ゆえ定期的な状態の確認、補修を行っている。日常的な点検は目視などの方法によるが、安全管理上特に注意している一部作品について、専門の業者による調査を行った。</p> <p>【本郷新記念札幌彫刻美術館】</p> <p>▼ 施設維持管理にあたっては、来館者の安全・快適性を確保して適切に行った。警備・庭園管理については第三者委託により実施した。</p> <p>▽ 防災</p> <p>【札幌芸術の森】</p> <p>▼ 下記のとおり、防災訓練等を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回消防訓練(机上) 11/28 ・第2回消防訓練(総合) 2/21 <p>【本郷新記念札幌彫刻美術館】</p> <p>▼ 下記のとおり、防災訓練等を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消防訓練 (10/16) 	<p>仕様書に則した維持管理業務を行うことができた。</p> <p>状況に応じた適切な修繕を実施することができた。</p> <p>野外美術館の多くの作品が設置から約30年以上経過しているため、外観からの日常点検では把握することができない内側の劣化も予想される。今後必要な対策のために、保全方法の研究を進めている。</p> <p>仕様書に則した維持管理業務を行うことができた。</p> <p>職員と常駐業者の防災への意識を高めることができた。</p> <p>職員の防災への意識を高めることができた。</p>
--	--

(4)事業の計画・実施業務	【札幌芸術の森】	A B C D
	<p>▽ 音楽舞台芸術事業</p> <p>文化芸術の発信事業として展開してきた「サッポロ・シティ・ジャズ(自主事業)」や、次世代の文化芸術の担い手の育成・支援事業として30年以上の歴史を有するバレエセミナーなどの事業を実施した。ジュニアジャズスクールは20年目を迎え、アニバーサリーセッションなどの記念事業を開催した。</p> <p>▼ サッポロ・シティ・ジャズ 札幌の観光文化事業を担う独自のジャズイベントとして開催13回目を迎えた。 会期は前年度に続き、夏期間と冬期間に分けて開催。夏期間は、札幌駅前通でシティジャズの開幕を告げるジャズパレード、全国から約280組が出演し街中で演奏を繰り広げるパークジャズライブを実施。例年行っている芸術の森でのノースジャムセッションでは、特別企画として、縄文太鼓制作ワークショップ参加者で構成する市民太鼓隊と、ビッグバンド・札幌ジャズアンビシャスのコラボレーションによる大迫力の演奏を実施。また、エスタビアガーデンやクロスホテル札幌とのタイアップなど、企業、団体と提携し、様々なステージを展開。 冬期間は、札幌文化芸術劇場hitaruを会場に、舞台上にステージと客席を設け、食事とライブを楽しめる「シアタージャズライブ」をはじめ、札幌市民交流プラザ内のコートやスタジオを利用したコンサートや演奏体験、ジャズ写真展などの教育普及事業、札幌市図書・情報館等を活用した情報発信など、さまざまな空間機能を備える市民交流プラザを活用した事業を展開した。 また、海外プロモーションとして、イタリア・ペルーで行われたウンブリア・ジャズに前年度のパークジャズライブで優勝したアーティストを派遣した。</p> <p>▼ 札幌ジュニアジャズスクール 毎週末の定期練習のほか、札幌市内・道内各地での演奏活動、プロミュージシャンによるワークショップへの参加や共演を行った。 また、道内地域へのジュニアジャズの活動振興を目的としたジャズの種プロジェクトとして、道内4地域(広尾、ようてい、幕別、砂川)のジャズスクールと連携し、交流や共同発表会を実施した。 令和元年度は開講20周年を迎えたことから、記念事業として、ジャズスクールの修了生と在籍生によるセッションライブをMUSIC LAMPで披露し、また、市内の小学校4校と4か月にわたる交流活動を行い、また成果発表として、ファイナルライブで総勢150人を超える合同演奏を行った。</p>	

▼バレエセミナー

31回目の開催となったバレエセミナーは、パリ・オペラ座の元エトワールであるジョゼ・マルティネズが主任講師となって4年目を迎え、世界水準の講師たちによる指導を行った。

全日程を4日間ずつ半期で受講できる二期制や、成績優秀者が海外バレエ団で短期研修を受けられるアワードを昨年に続き実施した。

▼北海道グループキャンプ

アメリカ・ボストンのバークリー音楽大学よりタイガー大越をはじめとする現役教授陣を招聘し、同校の教育メソッドを受講できるセミナーを、全国から受講者を募集し7日間にわたり開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催を中止した。

▼ビッグバンドプロジェクト

世界的ジャズピアニスト、デビッド・マシューズを音楽監督に迎え、地元ミュージシャンから編成される札幌ジャズアンビシャスを対象に年間を通じて定期練習を実施し、2月には3度目の定期演奏会を行った。

また、活動のプロモーションも兼ね、道内2か所(根室市及び幕別町)でライブを開催。

ほかに、1月には初となるCD「ONE MORE TIME」を発売した。

▼アニエス・ルテステュ-変貌する美 <札幌公演>

パリ・オペラ座元エトワールで、札幌芸術の森バレエセミナーの講師を務めるアニエス・ルテステュが、パリ・オペラ座ブルミエダンスールのヴァンサン・シャイエ、ピアニストのエドナ・ステルンらとともに、J.S.バッハ、ショパン、ハチャトゥリアンなどの楽曲をジョゼ・マルティネズ、ブルーノ・ブーシェ、ガロッタなど現代を代表する振付によるダンス公演として、宮城県多賀城市と岐阜県の連携により開催した。

過去の改善点・成功点を踏襲し、延べ166人の受講生を集め、優秀なバレエ人材の育成に寄与することができた。

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催を中止したが、当事業における成績優秀者には、バークリー音楽大学で開催される5週間のサマーセミナーに参加できるアワードも開催以来設けており、ここから数多くのプロミュージシャンを輩出していることから、我が国のジャズシーンにおいて重要な役割を果たしている。

定期演奏会では、バイオリニストや地元のパレエダンサーと共演し、新たな音楽・舞台芸術の創作に努め、披露した。

また、定期練習の成果発表として、道内2か所で地方公演を行い、好評を得ることができた。

芸術の森で培われた招聘ノウハウにより、優れたダンス作品を本市のみならず、国内他都市に紹介することができた。

▽ 芸術の森美術館事業

▼ 展覧会事業

札幌芸術の森美術館では、いま紹介する意義を考慮して展覧会を開催している。当年度の開催展は次のとおり。

①「札幌美術展 砂澤ビッキ〜風〜」(札幌市補助事業)
(自主事業に掲載)

②「テオ・ヤンセン展」

身近な素材である塩ビ管を用い、緻密な設計に基づいて巨大な構造体を組み立て、風の中で動かす作品を作ることで世界から注目を浴びているテオ・ヤンセンの作品展。作品を「生命体(ビースト)」と呼び、死生観を作品に反映させるのはダ・ビンチを彷彿とさせる。作品の一部を展示室内で動かしたり、札幌市民交流プラザでヤンセンの講演会を開催するなど、大いに盛り上がった。

会期: 令和元年7月13日(土)～9月1日(日)

入場者数: 72,035人

③「奇跡の芸術都市 バルセロナ」展

世界有数の港湾都市バルセロナ。産業革命時代からの約80年間にわたるバルセロナ美術の変遷を、絵画、彫刻、工芸品など総合的に展観した。急速な工業化による貧富の差の拡大、具象から抽象へと変化する美術の動向も見て取れる内容とした。期間中、チェンバロ、ギターのコンサートを開催し、好評であった。

会期: 令和元年9月14日(土)～11月4日(月・祝)

入場者数: 38,705人

④「タグチアートコレクション 球体のパレット」展

北海道では久しぶりとなった本格的な現代美術展。田口弘、田口美和親子が、時代を意識し、客観的な視点から収集した多数の現代美術作品の中から、日本を含めた地球全体を俯瞰しながら各地域の美術を代表する作家の作品を出品し、たいへん好評だった。

会期: 令和元年11月19日(火)～令和2年1月13日(月・祝)

入場者数: 6,861人

出品作品は当館がヤンセンのアトリエを訪問し、協議しながら作品を選定した。選ばれた作品は、福井、メキシコ、兵庫を巡回するなど、当館が主体的に企画をした。夏休み期間の開催ということもあり、たいへんな人気を博し、当館歴代6位の入場者数を記録した。

19世紀後半から1900年代初頭の活気に満ちた華やかな時代を反映した豪華な工芸品や宝飾品の展示とともに、激動の美術史を代表するピカソ、ミロ、ダリなどの初期の作品も交えながら、時代の動き全体を感じ取っていただけだ。

作品の選定・企画を当館が行い、北海道立美術館(帯広、釧路、函館)を巡回した。地球全体を俯瞰して作品を選定したことは、日本や欧米に偏りがちな展示とは異なるユニークなものであり、普段見慣れない質感に触れることができた。また、ハロー!ミュージアムで小学5年生にも現代美術を体験してもらったことは、今後の美術への視点変化に大いに貢献したと考える。

⑤「みんなのミュシャー線の魔術ー」

ミュシャの作品の中核を成す特徴的な線で描かれた作品群と、その影響を受けた欧米や日本のアーティストの作品を紹介し、ミュシャの線の魅力に迫った。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、2月29日から3月31日まで臨時休館とし、付帯事業は中止となった。

会期: 令和2年1月25日(土)～4月12日(日)

入場者数: 11,778人(令和元年度)

単に人気作品を展示するばかりでなく、作風に影響を与えた工芸品なども展示することにより、ミュシャがどのように曲線美を描くようになったかを紹介した。また、ミュシャに影響を受けた世界各国のアーティストを紹介し、作家が受けた影響、与えた影響の双方を、広がりを持って展観することができた。

⑥札幌芸術の森美術館コレクションの紹介(4回)

平成30年度に収蔵した作品から舟越桂《山を立てる》に加え、当館収蔵作品から舟越桂の作品も展示。

「1925 胡蝶園とその時代の画家たち」展では、北海道美術協会(道展)結成に寄与した本間紹夫の紹介を中心に、関連する当館収蔵作品や各種資料を展示。

また、工芸館においても、野外美術館展示作家の小作品、動きが感じられる作品を2回展示するなど、収蔵作品の紹介に努めた。

入場者数: 4回合計 78,490人

[札幌芸術の森美術館]

展覧会企画数: 9本

総入館者数: 217,410人

(自主事業「砂澤ビッキ～風」を含む。)

▼野外美術館

・来館者への作品鑑賞サポートとして、野外美術館作品解説ボランティア29名により、作品解説を行った。一般来館者への作品解説を行った。

・野外美術館の作品鑑賞の手引きとして、彫刻鑑賞ノートと、子ども向けには、シールを貼りながら作品を楽しく学ぶことができるシールマップを制作販売した。

・野外美術館の利用促進を目的に、人数を限定したうえで犬を連れて入館できる「Wan Wanフェスティバル」を行った。

作品解説ボランティアは、ボランティア研修12回を受け研鑽を積み、定時解説、臨時解説など、来館者の希望に応じた時間や内容で解説を行い、道内外からの来館者からは、作品をより理解することができたと好評を得た。ボランティア活動としては、他美術館への視察や、自主研修を行うなど積極的な取り組みにより、より質の高い解説を今後も目指していく。

▼教育普及に関する事業

・佐藤忠良記念子どもアトリエでは、彫刻家佐藤忠良作品を中心とした当館所蔵品を展示するとともに、多彩なワークショップを企画・実施した。

[佐藤忠良子どもアトリエ]

ワークショップ企画数:9本(うち1本は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止)

総参加者数:2,573人

総入館者数:25,051人

▼自主事業

●「札幌美術展 砂澤ビッキ～風～」(札幌市補助事業)

北海道でとりわけ重要な作家である砂澤ビッキの没後30年の節目を記念し、本郷新記念札幌彫刻美術館とともにテーマを分けて同時開催した。ビッキの作品は札幌芸術の森美術館の収蔵作家の中核的存在であり、没後30年を経過した時期に総体的に振り返り、再度その意義を確認した。

会期:平成31年4月27日(土)～令和元年6月30日(日)

入場者数:9,541人

佐藤忠良記念子どもアトリエでは、ほかではなかなか体験することができないワークショップを企画・開催した。うちわに岩絵の具でかき氷を描くワークショップ、パステルやアクリル絵具で額付の絵画を制作するワークショップなど、本格的な画材を用い、実際の制作に近い形での体験ができる企画を実施した。保護者からも、子どもたちが積極的に楽しんで参加でき、指導もやさしく丁寧であると、大変好評であった。今後も、親子で美術に興味を持ってもらえる企画を考えていく。

本展では風をテーマに晩年の大作を中心としてビッキの功績を回顧した。野外美術館の《四つの風》も章の一つとして紹介し、作品の今後を一考する契機とした。また展示資料には、これまで紹介されてこなかったデッサンや水彩の習作などを含め、ビッキの表現のあり方について調査の結果を踏まえて紹介し、一層認識を深め、大いに成果を挙げることができた。また、本展を機に、札幌市民交流プラザとの連携で、舞踏の上演(10月)も行われ、充実した展覧会となった。

<p>●子どもの美術体験事業「ハロー！ミュージアム」市内の小学校5年生児童を対象に、鑑賞活動及び造形活動の楽しさを体験するプログラムを実施。「芸術の森美術館コース」「野外美術館コース」「子どもアトリエコース」「彫刻美術館コース」の4つのコースを設定した。事前学習を担当教師が行う方法とし、学校が主体となって活動する方法としている。担当教師向けに、各コース会場において、活動に関する説明及び事前学習の模擬授業と教材(事前学習キット)の配布を行った。また、鑑賞学習をサポートする協力員(教育サービスボランティア)の養成講座を実施し、今年度は47名が活動した。</p> <p>コース別参加校数等 ・芸術の森美術館コース:67校 ・野外美術館コース:63校 ・子どもアトリエコース:35校 ・彫刻美術館コース:21校 総参加校数:186校 総参加児童数:13,470人</p> <p>熊出没の影響で青少年山の家が一時休館となり、本事業を研修プログラムのひとつとしていた学校15校が実施中止となった。</p>	<p>今年度のハロー！ミュージアムでは、昨年に引き続き市立小学校が参加、コース説明会は教員が参加しやすくするため、夏休み期間中にも実施した。</p> <p>「対話による鑑賞」や、頭像作りを通じて、多くの「気づき」を促し、気づいたこと、感じたことを言葉で表現することで「言語力」をはぐくみ、グループメンバー個々に捉え方が違うこと、それを認め合う「多様性」の受容も重点としている。</p> <p>この事業は、学習指導要領にも合致しており、子どもの成長、ひいては今後の社会に重要な役割を果たすことから、美術館活動の中で最も重要な事業である。</p>
<p>▼ 連携事業</p> <p>●シンポジウム《いま、野外彫刻の保全を考える》札幌市、札幌芸術の森美術館、本郷新記念札幌彫刻美術館との共催で札幌市民交流プラザSCARTSコートで開催。野外彫刻の保全のあり方について、専門家や作品修復に携わった方々による講演を行った。令和元年6月29日(土)</p> <p>●「砂澤ビッキ展」(前掲) 札幌芸術の森美術館と本郷新記念札幌彫刻美術館とが没後30周年を記念する砂澤ビッキの作品をテーマを分けて2館同時開催とした。</p>	<p>野外彫刻の保全について市民の関心を高めることができた。</p> <p>2館同時開催とすることで、砂澤ビッキへの関心を高めることができた。</p>

▽ 工芸・工房事業

▼ 工芸館展覧会事業

「0さいからのげいじゅつのもり ドライブインシアター」
 「札幌芸術の森美術館彫刻コレクション1」「テオ・ヤン
 セン展」「札幌芸術の森美術館彫刻コレクション2」「芸
 術の森クリスマスアート展2019」「森から生まれたクラフ
 ト展2020」の計6本の企画展に加え、「第25回芸術の
 森地区文化祭」を実施した。

[札幌芸術の森工芸館]

展覧会企画数: 7本

総入館者数: 132,911人

「芸術の森クリス
 マスアート展」「森か
 ら生まれたクラフト
 展」は数年ぶりの開
 催。ジャンルに捉わ
 れず作家や市民に
 作品発表の場を提
 供するとともに、来
 場者には“ものづく
 り”の魅力と芸術の
 森の研修施設をPR
 する機会となった。

▼ 第19期工芸館常設展示事業

クラフト作家に対する展示機会の提供、使い手側
 には良質の作品と出会い購入できる場の提供により、ク
 ラフト文化の振興と流通拡大を図るため、工芸館に常
 設展示スペースを設置している。開設から19期目とな
 る今年度は、会期を春夏秋冬の4期に分け、期間ごと
 に15～20人程度の作家を入れ替えた。作品には作家
 からのメッセージなどを添えて、来館者が作り手に対し
 てより親しみを持てる展示となるよう工夫した。今年度
 の出品家は道内67名、道外6作家の計73名。

会期: 平成31年4月13日(土)～令和2年3月25日(水)

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため2月29日
 ～3月31日まで中止

会場: 工芸館常設展示スペース「ベストポケット」

幹旋販売額: 3,599,467円(前年度実績: 3,004,756円)

9月5日から会場
 を工芸館展示ホー
 ル内に移設、これま
 でよりも空間的な制
 約のない展示を可
 能とした。

また夏場はガラス
 作品、秋から冬に
 かけては木工作品
 の展示に力を入れ
 るなど、季節に合わ
 せた作品選定を行
 うとともに、作家か
 らのメッセージを添
 えるなど、作品によ
 り親しみを持てる見
 せ方を工夫した。

▼ 工芸・版画講習会事業

クラフト工房と各工房において、工芸と版画の裾野の拡大と制作技術の向上を目的とした講習会を通年で開催。陶芸、テキスタイル、木工、七宝、ガラス、金工、版画の各分野で、個人向けの「工芸・版画講習会」、団体向けの「グループ講習会」、また、予約なしで気軽に作品制作が楽しめる「ふらっとクラフト体験」など、制作体験から技術習得、また、作家によるワークショップなど、初心者から上級者向けまでの幅広いプログラムを実施した。

会期：平成31年4月～令和2年2月

(令和2年3月は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止)

会場：クラフト工房、木工房、染工房、織工房、版画工房

講習会総実施回数(ふらっと体験を除く)：300回(前年度実績：537回)

講習会総受講者数(缶バッジ体験を除く)：4,835人(前年度実績：8,074人)

▼ アウトリーチ事業

● 市内のショッピングセンターや札幌ドーム、また当財団の札幌市民交流プラザに職員が出向いて工芸・版画講習会の体験イベントを実施した。

会期：令和元年11月～令和2年2月

実施回数：4回(前年度実績：4回)

参加人数：452人(昨年度実績：680人)

単に「つくる」という体験で終わらずに、作ったものを暮らしの中で「つかう」ことに重きを置いた内容で講習会を実施し好評を得た。制作技術の向上を目的とする市民向けには「自由制作教室」を開催したり、外部から講師を招聘して講習会を実施することでリピーターの獲得に繋げることができた。

夏休みや冬休みの時期には小学生の自由研究につながるメニューで講習会を実施する工夫をした。

また、冬期間には市内の児童会館を対象とした低価格帯のグループ講習会「森のクラフト教室」を実施し、多くの子どもたちで賑わいを見せた。

普及事業の一環として実施した工芸・版画分野のアウトリーチプログラムには、普段、芸術の森に足を運ぶ機会が少ない市民にも参加してもらうなど芸術文化事業の紹介と制作体験の機会を創出することができた。

▼ ワークショップ事業

● 札幌市内の公共施設で芸術文化団体と共催で「ものづくり」ワークショップを実施した。

会期：平成31年4月～令和2年1月
 実施回数：9回(前年度実績：4回)
 参加人数：214人(前年度実績：100人)

札幌市内の芸術文化団体と共催し、通年の講習会メニューに捉われないプログラムを提供した。北海道貴金属工芸組合とは、園内イベントの他、美術館展覧会と連動したワークショップを開催した。また昨年引き続き開催した「縄文太鼓でアートキャンプ」ではサッポロ・シティ・ジャズと連携し、陶芸制作体験で制作した楽器を用いて野外ステージでジャズのビッグバンドと共演するワークショップを行い好評を得た。

▽ その他文化芸術事業

▼ 「芸森アートマーケット」

市民の作品発表・展示の場を提供する事業として継続して実施しており、芸術の森で3回開催した。

市民アーティストが様々なジャンルの手作りアート作品を持ち寄り、発表・展示・販売を行った。

年5回の開催予定のうち、雨天により3回の開催に留まったが、市民アーティストに発表・交流の場を設けることができた。

▽ 各種団体との連携による文化芸術の振興

市内芸術団体などと共催し、アマチュアミュージシャンが主催するサーキット型音楽イベント

「MOMENTKINGDOM in 芸術の森」やクラブ音楽イベント「SUMMER STAGE SAPPORO BIG FUN」、ダンスコンテスト「KING DANCE MATSURI 9」の予選会を、アートホールや野外ステージなどを活用して開催した。

一方、アートホールや冬の野外美術館を活用する冬の音楽フェス「OTO TO TABI」は新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催を中止した。

意欲的な試みを実施したい他団体と提携し、芸術の森の施設や事業ノウハウを提供することで、新しい音楽文化の発信を行うことが出来た。

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

▽ 展覧会事業

- ▼ 総入館者数15,485人
(本館9,226人、記念館6,259人)

【本館】

下記の展覧会を開催した。

- 特別展(入館者数)
 - ・「砂澤ビッキー樹一」(2,620人)
 - ・「わくわく★アートスクール2019作品展 ほんごうしんじゅりん 本郷新たな私」(682人)
 - ・「家具の彫刻家 フィン・ユール展」(3,216人)
 - ・「さっぽろ雪像彫刻展2020」(600人)
- コレクション展(入館者数)
 - ・「本郷新と無辜の民」(1,054人)
 - ・「所蔵品展」(29人)

【記念館】

本郷新の代表作や野外彫刻の石膏原型、制作道具などの常設展示を行った。平成29年度から2階の一角に本郷新や彫刻芸術に関する図書を自由に閲覧できるコーナーを新たに設けた。

- コレクション展(入館者数)
 - ・「本郷新の歩みと芸術」(6,141人)

「砂澤ビッキー樹一」では、今や世界的にも名が知れ渡る北海道を代表する木彫家の工芸的側面に特化した展覧会を企画した。「わくわく★アートスクール2019作品展」では、近隣小学校3校の児童がアーティストとともに製作した作品を展示した。「家具の彫刻家 フィン・ユール展」では、彫刻に近接する立体芸術分野の検証という観点から20世紀半ばに活躍したデンマークの椅子デザイナーの展覧会を企画した。「さっぽろ雪像彫刻」展では、美術家や学生等による雪像彫刻10基のほかに滑り台を設け、家族連れで賑った。「本郷新と無辜の民」では、国際紛争や難民問題に正面から向き合った作品群〈無辜の民〉に焦点を当てた。

本郷新が手がけた野外彫刻の石膏原型やブロンズ・木彫などの代表作、制作道具等を常設展示するほか、本郷新や彫刻一般についての図書や、本郷新の蔵書などを紹介する図書・情報コーナーを設け、本郷新や彫刻芸術についての情報を発信することに努めた。

▽ 本郷新の業績を顕彰することを目的とした事業

▼ 本郷新記念札幌彫刻賞(第3回)

- ・募集
- 応募者数13人
- ・一次選考
- 通過者数5人

本郷新の功績を記念するとともに、若手作家の育成を願った本郷の遺志を受け、50歳未満の若い彫刻家を対象に、優れた彫刻作品に「本郷新記念札幌彫刻賞」を贈る事業。今年度は第3回の募集を行い、一次選考までを行った。

▽ 彫刻を中心とした美術に関する講座等

▼ 普及事業

● 子どもの美術体験事業「ハロー！ミュージアム」(彫刻美術館コース)【自主事業(札幌市補助金事業)】

参加校数:21校(24回)

参加児童数:1,238人

● 子ども育成事業「わくわく★アートスクール」作品制作

参加校:大倉山小学校、三角山小学校、宮の森小学校

参加児童数:延べ642人

● 彫美連続講座2019

実施回数:3回

参加者数:131人

● 造形教室

・大人のデッサン教室

参加者数:10人

・夏休み子ども造形教室

実施回数:2回

参加者数:23人

・冬休み子ども造形教室

参加者数:9人

● ブロンズ彫刻保守作業講習

参加者数:18人

「ハロー！ミュージアム」の彫刻美術館コースでは、21校(24回)が参加し、内容について高い評価を得た。

連続講座は4年目を迎え、彫刻の魅力を広めることを目的に、より深く彫刻を知るための多様な講座を実施しており、彫刻ファン層の毎年の参加がある。4回の予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため1回中止している。

子ども造形教室は夏休み、冬休みの自由研究作品を作る目的の参加者が目立ち、講師である彫刻家や造形作家から直に作品作りの楽しさと技術を教わる貴重な機会として定着している。

▼ 学校協力

●総合的な学習の時間枠での博物館利用
三角山小学校3年生291人(7回)、大倉山小学校3年生61人、宮の森小学校3年生117人

●ボランティア活動の受け入れ

札幌聖心女子学院中等部1年生8人、引率者2人

●職場体験の受け入れ

宮の森中学校2年生2人、啓明中学校2年生2人、向陵中学校2年生2人

●北海道高等学校文化連盟石狩支部美術専門部主催「第65回 石狩支部美術展・研究大会」の団体鑑賞の受け入れ

9校、生徒93人、引率者12人

●学芸員資格取得希望の大学4年生を対象とした博物館実習(館園実習)の受け入れ

大学4年生5人(札幌大学1人、札幌市立大学3人、北翔大学1人)

●北海道大学の学芸員課程履修者を対象とした施設見学

学生28人

▽ その他彫刻美術館の設置目的を達成するための事業

▼ 促進事業

●美術館めぐり

実施回数: 4回

参加者数: 52人

●サンクスデー

実施回数: 2回

入館者数: 386人

●カルチャーナイト2019

参加者数: 75人

▼ 貸館事業

なし

▼ ボランティア活動の受入

ハロー!ミュージアムで児童への鑑賞指導を行うボランティア(協力員)を受け入れ、実際の活動と事前の研修を行った。また、図書情報コーナーボランティア、英訳ボランティア、解説ボランティア、スクラップブックボランティアを受け入れた。

▼ 連携事業

●財団他施設との連携

「砂澤ビッキ」展を札幌芸術の森美術館と共同企画、同時開催を行ったほか、美術館めぐりで芸術の森を訪問した。また、札幌芸術の森美術館、市民交流プラザと連携して公開セミナー「いま、野外彫刻の保全を考える」を行った。

小学校における総合的な学習の時間、中学校におけるボランティア活動や職場体験、大学での調査・研究、博物館実習の受け入れなど学校教育への協力を行った。

美術館めぐりでは芸術の森管理のバスを利用することで交通の利便性を高め、財団の施設を中心に訪問する、市民の参加しやすい芸術鑑賞ツアーを行った。カルチャーナイトでは市内で活躍する演奏家に依頼したコンサートを行った。

財団の他施設との連携を図り、財団の総合力を活かす事業を行っている。公開セミナーでは、公園や広場、街路に設置されるモニュメントやパブリック・アートなどについて近年の保全事例を紹介し、今後の屋外彫刻のあり方について展望した。

(5)施設利用に関する業務	▽ 利用件数等				A	B	C	D
		【札幌芸術の森】						
	・施設の利用状況		H30実績	R1計画	R1実績			
	アートホールアリーナ	件数(件)	223	230	196			
		人数(人)	18,129	19,000	13,876			
		稼働率(%)	66.4	65	58.5			
	アートホール練習室	件数(件)	1,936	2,200	1,768			
		人数(人)	19,226	21,000	16,045			
		稼働率(%)	57.3	57	52.1			
	野外ステージ	件数(件)	36	36	39			
		人数(人)	20,426	22,000	26,419			
		稼働率(%)	20.2	20	20.9			
	各種研修室	件数(件)	4,620	4,800	4,423			
		人数(人)	6,641	7,000	5,761			
		稼働率(%)	88.7	88	84.6			
	各種窯	件数(件)	269	400	411			
		人数(人)	640	600	742			
		稼働率(%)	30.1	30	36.1			
	各種アトリエ・ロτζ	件数(件)	309	350	378			
		人数(人)	2,687	2,600	3,161			
		稼働率(%)	26.8	27	28.3			
	駐車場	件数(件)	49,700	70,000	72,706			
	・入場者数		H30実績	R1計画	R1実績			
	総入園者数		351,955	505,000	607,759			
		芸術の森美術館	93,239	156,950	247,096			
		芸術の森野外美術館	55,938	60,000	79,299			
	▽ 不承認 0件、取消し 718件、減免 134件、還付 21件							

年度初めの工事および年度末の新型コロナウイルスの影響による美術館休館やかんじきウォーク等の休止があったにもかかわらず、美術館展覧会や謎解きなどの園内利用促進イベントが好評だったことにより、総入園者数が開園以来最高の60万人超えを記録した。

札幌芸術の森では、貸施設のアートホールアリーナ、野外ステージ及び各種研修室の利用状況が要求水準を下回っているものの、野外美術館を活用した謎解きイベントや夜間延長営業時のライトアップイベント等、集客に向けた工夫を行っており、結果として、総入園者数が60万人を超え、屋内、野外美術館ともに前年度を上回ったことは高く評価できる。

彫刻美術館では、主催展覧会にあわせて多彩な関連事業を開催する等、集客に向けた工夫を行っており、来館者数は前年度を下回ったものの、本市の要求水準9,000人を満たしている点は高く評価できる。

以上により、本市の要求水準を満たす適切な管理運営が行われている。

▽ 利用促進の取組

▼ 芸術の森や文化芸術に気軽に親んでもらうこと、来園者増を目的とし、園全体としてのイベントを6回開催した。各回ともに野外美術館の無料開放のほか、ものづくりワークショップやスタンプラリーなど子どもから大人まで参加ができるコンテンツを数多く実施した。昨年度からの取り組みである「謎解き野外美術館」は趣向を凝らした演出で好評を博し、野外美術館に足を運ぶきっかけをつくった。さらに、新たな野外美術館の活用として、夜間延長営業を行い、プロジェクションマッピングにより魅力的な空間を創出する試みを実施し(ひかりの森の美術館)好評を得た。

- ・芸森スプリングフェスタ:3,523人
- ・芸森パースデー:7,035人
- ・芸森ハロウィン:1,268人
- ・秋の芸森あったかサンキュー・デー:905人
- ・雪あかりの祭典:2,043人
- ・謎解き野外美術館 隠された庭からの脱出【復刻版】:
9,956人
- ・謎解き野外美術館2 隠された庭の幻影:10,987人
- ・ひかりの森の美術館:98人

▼ 札幌と小樽の芸術文化及び観光の振興を図るため、札幌市芸術文化財団、株式会社ニトリホールディングス、一般社団法人札幌観光協会、一般社団法人小樽観光協会の4者で「札幌小樽芸術文化・観光に関する連携協定」を締結し、連携事業として小樽雪あかりの路期間中にジャズライブを実施した。

▼ 開園以来実施している冬期間の野外美術館での「かんじきウォーク」の参加促進のために、かんじき等の貸し出し品の整備や海外旅行者向けの案内を充実させ、利用しやすい環境を整えた。さらに、夏季に行い好評を得た謎解きイベントを冬季のコースでも企画し、提供した。

▼ 南区シーニックバイウェイ協議会に参加し、スタンプラリーの実施や無料カレンダーの制作、配布などを通じて、南区エリアの観光名所全体でのアピールに努めた。

▼ 連携協定を締結している芸術の森地区連合会との事業では、毎年恒例となった「雪あかりの祭典」をはじめ、「芸術の森地区文化祭」や「芸術の森地区音楽祭」など、芸術の森の環境を生かし、地域の活性化に繋がる事業を継続実施した。

四季にあわせて実施した年5回のイベントはいずれも好評であった。野外美術館を会場に実施した謎解きイベントとライトアップは来館者の満足度が高く、野外美術館の魅力発信に大きく貢献することができた。特に2年目の開催となった謎解きイベントは、令和元年度は春・夏に2シリーズ実施。毎回多くの参加があり、入場者数は前年度比15,198人増となった。事前プロモーション動画の配信やお土産として販売したマスキングテープにおまけ問題をつけるなどして、実際に参加する前後にもお楽しみいただけるコンテンツを提供したことで、多くのファンを獲得することができた。新規の来館者を創出しただけでなく、リピーターとして複数回来館していることがアンケート等で確認することができた。

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

・施設の利用状況

		H30実績	R1計画	R1実績
本館 展示室	展覧会件数	6	5	5
	開館日数	250	257	230
本館 研修室	利用件数	3	5	5
	利用日数	6	8	8
本館 屋外	利用件数	1	1	1
	利用日数	3	3	3
記念館	展覧会件数	2	1	1
	開館日数	297	304	277
貸館	利用件数	2	0	0
	貸館日数	12	0	0
本館入館者数		10,359	9,000	9,226

▽ 不承認 0件、取消し 0件、減免 0件、還付 0件

▽ 利用促進の取組

▼ サンクスデー

年2回「サンクスデー」として無料開館し、集客を図った。親子連れで楽しめる企画やミュージアムコンサートなどを実施し、幅広い層の来館を促す工夫をした。
実施回数:2回 参加者数:386人

▼ ちょっとお散歩一本郷新展

宮の森中学校文化祭「地域文化作品展」にアウトリーチとして本郷新の彫刻作品7点を出品展示した。解説パネル、ポスターの掲示、美術館紹介のリーフレット配布のほか、館長、学芸員による解説を行った。
入場者数:221人

「フィン・ユール展」では、彫刻美術館に初めて足を運んだという声が多く聴かれた。当館の認知度を上げるのみならず、美術分野へと誘えたことは意義があった。

入館者は前年度を下回ったが、前年度が28年ぶりの記録的数字であったこと、また新型コロナウイルス感染拡大防止のため27日間の臨時休館の措置を講じたことを勘案すると標準的な入館者数であったととらえられる。
記念館6,259人、合計15,485人。

サンクスデーやワークショップなどのイベントについて地域への広報を積極的に行い、参加を呼びかけた。

(6)付随業務

▽ 広報業務

【札幌芸術の森】

▼ 広報の充実

園内の各施設の担当者が集まり広報会議を定期的に行い、施設や課、係それぞれに行われる様々な事業について情報を共有し、積極的な情報発信を図った。

▼ ホームページによる情報発信の充実

平成28年11月に全面リニューアルを実施したホームページの内容をさらに充実させた。また、季節にあわせトップページのメイン写真を変更し、芸術の森の自然を含む魅力を伝えた。

サッポロ・シティ・ジャズやバレエセミナー等の情報量が多い事業は、引き続き個別のホームページを設け、ターゲットを絞った情報発信を行った。

謎解きイベントに関連するコンテンツを充実させたこともアクセス数が大幅に増加したことの要因となっている。

・ホームページアクセス数

R1:2,246,517件 (参考)H30:1,407,488件

▼ その他SNSによる情報発信の充実

新たに芸術の森公式Twitterアカウントを開設し、FacebookやInstagramと併せてリアルタイムの情報発信を行った。各施設のアカウントを合わせ、Facebookページ「いいね！」数は21,148人、Instagramフォロワー数は2,586人、Twitterフォロワー数は17,581人となり、情報拡散に努めた。

▼ ニュースリリースによるマスコミへの情報提供

毎週、市政記者室をはじめマスコミ、運営協議会委員、事業関係者など約170箇所に、芸術の森の最新情報をリリースする「今週の芸森。」をメールマガジン形式で配信するとともにホームページに掲載し、スピーディな情報発信に努めた。

▼ 小学生対象の情報紙「もりくる」の発行

夏休み、冬休みに合わせ、年2回、札幌市内全小学生を対象とした情報紙「もりくる」を発行し、学校を通じて児童に配布した。長期休暇期間に実施する子ども向けワークショップや展覧会、家族で楽しめるイベントの情報を中心に掲載し、休暇中のお出かけ先として広く周知を図った。

▼ ホームページ編集に携わる職員全員がウェブアクセシビリティ研修を受け、理解を深めた。また、既に公開されている全ページを、ウェブアクセシビリティに対応するよう修正した。

また、ウェブアクセシビリティ取組確認を実施し、2020年3月16日にホームページに公開した。

ホームページの全面リニューアルが市民にも知れ渡り、「わかりやすい」「見やすい」というご意見をいただくことが増えた。また、展覧会・イベント欄を担当者がそれぞれ更新することで、リアルタイムで詳細な情報を発信することができた。

このほか、SNS更新にも力を入れ、より多くの閲覧者の心に届くような投稿を心がけた。また、更新頻度も高めることで、情報拡散に努めた。

「もりくる」の認知度も定着し、休暇中の宿題対策として工芸講習会の情報を心待ちにしてくれている保護者もいる。今後も期待に応えられるような事業と分かりやすい広報に努めたい。

公開ページの修正により、2020年3月の評価では、30点満点中27ポイントとなり、2019年3月評価の5ポイントから大幅に改善することができた。

A	B	C	D
---	---	---	---

両施設とも、ホームページの充実を図りつつ、SNSの活用によりイベント情報や施設の魅力を発信している。

札幌芸術の森については、ホームページの内容の充実を図るなど、閲覧者に分かりやすい情報発信に努めた結果、アクセス数が前年度比で約80万件増加した。

また、SNSを活用したタイムリーな情報発信が行われていることは高く評価できる。

札幌彫刻美術館においては、近隣へのチラシ配布、SNS等を利用した広報活動により、地域住民の参加を促している。ホームページのアクセス数が増加している点も高く評価できる。

以上の工夫をこらした広報活動を行っていることは高く評価でき、本市の要求水準を上回っている。

	<p>【本郷新記念札幌彫刻美術館】</p> <p>▼ 通常のホームページ運営に加え、FacebookやTwitterでのこまやかな情報発信に努めた。また、宮の森地区連合町内会、近隣小学校へのチラシ配布を通じて地域住民への広報に積極的に取り組んだ。ホームページアクセス数:24,934件 (参考)H30:1,485件 Facebook「いいね!」数:846件 (参考)H30:747件 Twitterフォロワー数:3,997件 (参考)H29:3,868件 芸術の森の連携により、広報ツール(ニュースリリースや情報紙ルアプラス)の共有も行っている。</p> <p>▼ ウェブアクセシビリティ取組確認を実施し、2018年8月31日にホームページに公開した。</p> <p>▼ ホームページの管理・運営にあたっては、日本工業規格JIS X 8341-3:2016の適合レベルAAに準拠するとして「ウェブアクセシビリティ方針」を定めて公開し、利用者の立場に立った情報の提供に努めている。また、同方針に基づいた運用試験を着実にを行うよう準備を進めている。</p> <p>▼ ホームページ編集に携わる職員はウェブアクセシビリティ研修を受け、その理解を深めた。</p> <p>▽ 引継ぎ業務 (前回から継続指定のため、引継業務なし)</p>	<p>SNSの活用により若年層への情報提供ができたほか、地域住民への広報に引き続き注力し、地域での認知度を高めることができた。また、プレスへの直接的な働きかけを地道に行い、事業や取組を記事として取り上げてもらうことができた。</p>	
--	---	--	--

2 自主事業その他		
▽ 自主事業		A B C D
<p>【札幌芸術の森】</p> <p>▼ 「政策推進連絡会」の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 開催日 令和2年2月5日(水)14時00分～16時00分 ○ 意見交換等の項目 <ul style="list-style-type: none"> 【芸術の森魅力向上事業について】 <ul style="list-style-type: none"> ・多言語サイン設置(R2) ・野外美術館彫刻作品補修(R2) ・野外美術館新設置計画策定(R3予定) 【サッポロ・シティ・ジャズについて】 <ul style="list-style-type: none"> ・次年度事業の概要について ・中高生バンドの発表・交流事業について <p>▼ レストラン事業 センター2階の野菜を中心としたビュッフェレストラン「ごちそうキッチン 畑のはる」では、北海道産、とりわけ札幌近郊の食材を取り入れたメニューを通年で提供。令和元年度は園内の謎解きイベントや四季のイベントに合わせて特別メニューを提供し、利用者増加に努めた。また、美術館ではカフェ「ラ・フォルア」を営業した。(利用者：14,594人)</p> <p>▼ 売店事業 芸術の森美術館内のミュージアムショップを直営で運営し、展覧会に関連するグッズやアーティストに関する商品を取り扱い、来館者へのサービス向上に努めている。令和元年度は、道内を中心に活動する作家を紹介するコーナーを拡充し、作品等の展示、販売に一層力を入れた。 また、広大な園内で来園者が適宜利用できるよう各所に22台の自動販売機を設置した。</p> <p>【本郷新記念札幌彫刻美術館】</p> <p>▼ 「政策推進連絡会」の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 開催日 令和元年12月26日(金)午前10時～11時30分 ○ 意見交換等の項目 <ul style="list-style-type: none"> ・指定管理者評価シート ・札幌市まちづくり戦略ビジョン・アクションプラン2019掲載事業 ・野外彫刻作品保全推進費 <p>▼ 自動販売機を設置し、来場者の利便性向上に努めた。</p>	<p>道産を中心とした食材にこだわったレストランのメニューは、幅広い世代に好評である。平成30年度に引き続き、園内イベントや展覧会との相互的な魅力アップに努めた。</p> <p>ミュージアムショップでは、展覧会観覧者から関連グッズを希望する声が多く、積極的に意見を取り入れ運営を行うことができた。また、作品を取り扱う作家についてもリサーチを行い、幅広く紹介するよう努めた。今後も小規模ながら、楽しくセンスにあふれ来館者を飽きさせない工夫を継続していきたい。 また、来園者に不便がないよう、飲食物の自動販売機を適切な箇所に配置するとともに、夏季には熱中症への注意喚起、冬季間は温かい飲み物が提供できるよう、配慮を行った。</p>	<p>ビュッフェレストランでは札幌近郊の食材や展覧会特別メニューを提供しているほか、ミュージアムショップでは、道内を中心に活動する作家の作品展示・販売の充実化を図っており、地元の魅力をPRする取組が見られた。 その他、業務委託時に地元企業や福祉施設の活用を意識的に行っており、本市の要求水準を満たす適切な管理運営が行われている。</p>

▽ 市内企業等の活用、福祉施策への配慮等

【札幌芸術の森】

▼ 例年同様、令和元年度も各種保守点検、修繕業務など再委託については、その大部分を市内の企業に発注している。また、高齢者就労支援業者(シルバー人材センター)に受付業務の一部を委託した。また、福祉施設の活用として、札幌芸術の森美術館で開催される展覧会等の広報印刷物の封入作業を、近隣の就労支援施設に発注しているほか、令和元年度からの新たな取り組みとして、ミュージアムショップにおいて福祉施設が製造した菓子の取り扱いを開始した。

▼ 「サッポロ・シティ・ジャズ事業」では、設営や舞台技術、警備、飲食提供等の業務において、市内を中心に事業展開している企業を採用したほか、ライブができるロケーションを保有する様々な企業・団体と連携し、各会場の特性に合わせたライブイベントを数多く制作・実施した。

また、福祉施策としては、車椅子の方や障がいをお持ちの方でも気軽に来場できるよう、通路幅を広く設定した「ユニバーサルジャズライブ」の実施や、客席の一部を敷敷にしプレイスペースとした「デイトタイム親子ジャズ」の実施など、多くの市民に来場いただけるよう、工夫した企画を行った。

▼ 「札幌ジュニアジャズスクール事業」では、病院や福祉施設における演奏会を積極的に行った。

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

▼ 業務委託、消耗品等の購入は市内の企業を活用した。

▼ 一部清掃、クリーニング業務を、市内の福祉施設に発注した。

業務の再委託については、可能な限り市内企業に発注することを徹底した。福祉施設等の利用についても積極的に取り組むことができた。

市内企業の活用については、業務発注だけでなく、企業・団体と連携したイベント制作を行い、様々な形で地域企業を活かすことができた。

福祉施策への配慮も、複数の事業において積極的な取組を行うことができた。

3 利用者の満足度

▽ 利用者アンケートの結果			A	B	C	D
【札幌芸術の森】			<p>2/29～3/31の休館や事業の中止に伴い、アンケートの回収数が例年より2000件弱減少したが、それまでの回収量としては計画通りのため、来園者・利用者には適切に調査へのご協力を頂けている。</p> <p>アンケート調査の結果、満足度は施設・待遇共に良い評価をいただいた。</p> <p>札幌市の要求水準である、80%は越えている。</p> <p>今後は、来園者・利用者への接客対応の改善と、来園者・利用者の声を取り入れることができるよう努める。</p>			
実施方法	平成31年4月～令和元年3月 施設・事業毎のアンケート用紙を作成し配布。 ※令和2年2月29日～3月31日は臨時休館のため、アンケート回収無し。					
結果概要	回答:利用者アンケート 368件 事業アンケート 7,045件 (音楽・舞台芸術事業2,758件、美術館事業2,303件、工芸・工房事業671件、利用促進1,313件) 施設に対する総合的な満足度は94.8%('とても良い'、'良い'、'普通'の合計)と、前年度より満足度が増加した。職員の接遇に対する満足度についても、88.3%('とても良い'、'良い'、'普通'の合計)と、前年度より0.1%増となり、前年度に引き続き高い満足度を維持した。 施設表示の工夫や施設利用に関する意見や要望については、可能なものから都度迅速に対応するように努力した。					
利用者からの意見・要望とその対応	利用者からの意見や要望に関しては、職員間で情報を共有し、その都度迅速に対応した。 意見・要望については別添のとおり					
【本郷新記念札幌彫刻美術館】			<p>職員の接遇については前年度に引き続き高い評価を得ることができた。</p> <p>施設についてもおむね高い評価を得ることができた。展示内容については、利用者からの意見・要望もふまえ、今後もより充実した内容にできるよう努める。</p>			
実施方法	無記名の記入方式(通年) ※令和2年2月29日～3月31日は臨時休館のため、アンケート回収無し。					
結果概要	回答1,026件 来館者の施設に対する総合的な満足度は84.2%('とても良い'、'良い'、'普通'の合計)、職員の接遇についての満足度は97.9%('とても良い'、'良い'、'普通'の合計)と、総じて高い評価を得ることができた。					
利用者からの意見・要望とその対応	【要望】(本館)展示作品が少ない。 【対応】作品の大きさや配置によって展示数が少ない印象を受ける場合もあるが、観覧者の動線を確保しつつ、展示の仕方にも工夫を凝らし、より多くの作品を展示できるよう努めていきたい。 【要望】(タイトル・解説文)文字をもっと大きくしてほしい。 【対応】キャプションや解説パネルなどは、展示とのバランスを損なわないよう配慮しながら、なるべく文字を大きく読みやすいよう努めていく。					

4 収支状況

▽ 収支 (千円)

項目	R1年度計画	R1年度決算	差(決算-計画)
収入	856,161	896,506	40,345
指定管理業務収入	818,175	857,498	39,323
指定管理費	662,990	662,990	0
利用料金	48,989	64,080	15,091
補助金	0	1,370	1,370
その他	106,196	129,058	22,862
自主事業収入	37,986	39,008	1,022
支出	870,161	915,124	44,963
指定管理業務支出	820,700	864,841	44,141
自主事業支出	49,461	50,283	822
収入-支出	▲ 14,000	▲ 18,618	▲ 4,618
利益還元			0
法人税等			0
純利益	▲ 14,000	▲ 18,618	▲ 4,618

▽ 説明

▼ 利用料金収入とは、野外美術館観覧料、工房等利用料、駐車場利用料等である。令和元年度は、春・夏の野外美術館集客イベントが好評であったこと、夏の展覧会好調等により駐車場利用料も増加したことから、利用料金全体で計画比15,091千円の増収となった。

▼ その他収入とは、講習会受講料、企業協賛金、他の団体からの助成金等。講習会受講料収益が計画に達しなかったものの、好調であった夏の展覧会収益や助成金獲得により、計画比22,862千円の増収となった。

▼ 指定管理業務支出は、音楽鑑賞事業充実のための出演者招聘や業務委託に費用を要したことなどから、計画に比して44,141千円増加している。

▼ この結果、収支差引額は計画比で▲4,618千円となったが、過去の経営努力により獲得した財産により対応した。

事業内容の充実、集客強化、助成金獲得に努めた結果、収入は計画に比べ増加した。しかし、経費削減に努めたものの、支出は計画に比べ増加した。そのため、純利益は計画比で4,618千円の悪化となった。平成30年度は計画比27,694千円の減であったため、改善は見られたものの、ひきつづき経営改善に取り組む。来年度は、魅力的な事業展開でさらに集客を強化し、収益の確保に努めるとともに、費用執行の管理を徹底し、収支状況の改善に努める。

A	B	C	D

収入では、利用料金収入や自主事業収入が増収となった一方、支出では、事業充実を図るための委託費や出演者招聘に係る費用が増加した。全体として計画比約4,600千円の赤字となっているものの、民間助成金の獲得や、入園者の増加による利用料金の増収により、前年度と比較して赤字は縮減されている。安定的な施設運営を行っていくために、今後も、緻密な事業計画の作成や経費削減に取り組んでもらいたい。

<確認項目> ※評価項目ではありません。

▽ 安定経営能力の維持

当団体の財務状況等は、債務超過、累積欠損の状態になく、自己資本比率が50%以上等のため、経営の健全性が保たれており、安定経営能力が維持されている。

適 不適

▽ 個人情報保護条例、情報公開条例、行政手続条例、オンブズマン条例及び暴力団の排除の推進に関する条例への対応

【札幌芸術の森】

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

- ▼ 各条例の規定に則り、全て適切に対応した。
- ▼ オンブズマンについては、案件は生じなかった。
- ▼ 暴力団関係については、案件は生じなかった。

適 不適

Ⅲ 総合評価

【指定管理者の自己評価】	
総合評価	来年度以降の重点取組事項
<p>【札幌芸術の森】</p> <p>平成30年11月より始まった園内全域における大規模な工事に伴い、前年度は園内複数の施設が休館をしていたが、令和元年度は4月27日の芸術の森美術館再開により、約半年ぶりに全施設が稼働することとなった。総入園者数については、施設の休館のない平成29年度(433,044人)と比較して、607,759人と大きな増加がみられる。工事および新型コロナウイルス感染防止のために約2か月間、美術館等が休館をしていたにもかかわらず、開園以来の最高記録となった。</p> <p>大幅な入園者増となった一因としては、芸術の森美術館で開催された展覧会について多くの来館者を記録したことがあげられる。特にオランダのアーティストによる「テオ・ヤンセン展」は目標を大きく上回り72,035人と、開館以来6番目の入館者数であった。現在活躍中の海外のアーティストから、北海道の作家の顕彰、日本を含む各国の気鋭の現代美術の紹介、海外の著名な作品の展示まで年間を通して充実したバランスの良い展覧会のラインナップであった。</p> <p>さらに、昨年度から実施している野外美術館を会場とした謎解きイベントの爆発的な人気が新規の来園者を創出した。前年度の経験と参加者からの意見を活かし、ストーリーや仕掛け、演出に創意工夫を凝らしたことが多くの高評価につながったと考えている。市内各所で同様のイベントが複数開催されている中、謎解きファンから他と比較し最も良かったという内容のご意見を頂き、またイベントへのリピーターにより野外美術館年間パス購入が増えるなど、好反応を感じながら実施することができた。</p> <p>音楽・舞台芸術事業については、31回目の開催となるバレエセミナーでは、ジョゼ・マルティネスなど海外から講師を招聘し全国から集まった受講生に指導したのをはじめ、サッポロ・シティ・ジャズ(SCJ)、札幌ジュニアジャズスクールなど、どれも長期にわたり継続し市民や愛好家等の認知度が高い。SCJでは、昨年度から夏季、冬季に分けほぼ通年での事業展開とし、夏は開放的な屋外を会場に、冬は札幌市民交流プラザを会場にしたシアタージャズライブや教育・普及プログラムなど複数実施し、季節ごとのジャズの楽しみ方を提供した。</p> <p>また、クラフトキャラバンよりみちナイトワークショップ等、中心部に位置する市民交流プラザを会場に工芸の普及を進めるなど、財団内の連携を図りながら、アウトリーチを積極的に行うことができた。</p> <p>様々な分野において、教育普及にも熱心に取り組んだ。市内の小学5年生が活動をするハロー！ミュージアムは都合により参加がかなわなかったごく一部の学校を除き、市内の全校を受け入れた。ジャズ、バレエの高い水準での指導、SCJにおける市民講座や子ども向けライブなど、次世代の担い手の育成、新たなファンの開拓に力を入れている。また、野外美術館解説ボランティアやSCJジャズセーバーズなど生涯学習として市民の活動の機会を提供している。</p> <p>施設の維持管理については、委託業者と連携を図りながら、日々の点検により故障等の早期発見・早期対応に努め、業務仕様書や管理業務の計画書に基づき適切に実施することができた。</p>	<p>【札幌芸術の森】</p> <p>来年度についても第4期指定管理の運営に係る基本方針に基づき、事業を実施する。令和3年度に開園35周年を迎える準備の年でもあるため、施設のもつ魅力を十分に発信できるよう自然との調和、安全性、利便性の面から園内整備に力を入れたい。</p> <p>芸術の森のメインとなる施設の一つ、野外美術館については、昨年度、謎解きイベントや試行的にプロジェクション・マッピングを取り入れた「ひかりの森の美術館」等、新たな企画により魅力を再認識してもらい取り組みを進めているが、同時に施設的环境整備も必要となっている。彫刻作品についてはコンディション、設置状況の調査を行う計画である。広大な敷地内の園路や美観についても優先順位をつけ整備ができるようにしたい。ソフト面でも引き続き、謎解きイベントを企画しており、前回とはターゲットとなる層を変えた内容を目指しているほか、鑑賞がより充実したものになるようスマートフォンを利用した作品解説システムの導入にあたっている。さらに、利便性の向上とインバウンドへの対応として、Wi-Fiの設置、園内サインの多言語化などを図る。</p> <p>美術、工芸、音楽、舞台芸術、各分野については札幌市の文化芸術を担う施設として、芸術を担う人材育成や市民の活動、交流の場として、高い水準の芸術鑑賞の機会の提供、多岐に渡る講習会を実施する。これらの事業は、芸術の森にとどまることなく、市内中心部の施設を活用するなどし、より気軽に市民が事業へ参加できるようアウトリーチ型のイベントも多く企画している。当財団が管理運営している他施設のほか、市内団体との連携を図ることで、実施する事業の可能性を拡げていき、さらに園内施設で実施する事業を充実させるためにも、民間、各種団体との連携を図り、利用促進に努める計画である。</p>

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

展覧会事業では、札幌芸術の森美術館との共同企画「砂澤ビッキ」展を同時開催。広報戦略、両館の連携の効果的なあり方については改善の余地が残されたが、連携による来館者数増加において相乗効果があった点、作家の作品世界を二館での展示により包括的に紹介することができた点は成果といえる。「フィン・ユール展」では、二期に分けて開催し、前後期合わせて総計87点を紹介した。また、前後期セット券を発行するなど来館者の利便性の向上を図った。彫刻芸術、立体造形表現の可能性をデザイン分野に探る展覧会として開催の意義は大きく、今後に期待する声も多く寄せられた。来館者は、比較的若年層が厚く見受けられたことから、彫刻美術館の活動や本郷新の芸術についての普及に努めることができた。「本郷新と無辜の民」では、国際紛争や難民問題といった今なお人々の生活を脅かす事象に対して正面から向き合ったこの作品群にあらためて注目し、本郷作品の現代における意味を見つめなおすことを目的とした。一般市民の社会的関心と結びつき、新聞、一部SNS等による一定の評価を得ることができた。

その他の事業では、ハロー！ミュージアムや「わくわく★アートスクール」、近隣小学校への協力などの教育活動を通じて、子どもたちに充実した体験を提供することができた。また、美術館めぐり、造形教室などの人気事業は継続して内容の充実に努め、サンクスデーでは幅広い層に美術館をPRすることができた。

施設の維持管理については、日々の点検により故障等の早期発見・早期対応に努め、業務仕様書や管理業務の計画書に基づき適切に実施することができた。

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

本郷新の顕彰、彫刻を中心とした文化芸術の振興という基本に軸足を置き、彫刻美術館の特色を活かした魅力ある事業展開に引き続き努め、入館者の増加を図っていく。事業の企画立案に当たっては、彫刻芸術の真髄を伝えるものから、広く立体芸術の魅力伝えるものまで、様々に展開する。作家本人のアトリエであった記念館では、建物がもつ雰囲気を活かし、本郷新の芸術と業績を豊富な作品と資料により紹介するとともに、館が所蔵する彫刻芸術についての資料を広く一般に公開し、市民の文化芸術活動の支援を推進する。また、3回目を迎える札幌国際芸術祭に館として初めて参画する予定であり、企画内容を充実させ、館の国際的な認知度の向上にも努める。

普及事業では、ハロー！ミュージアムや長年携わってきた近隣小学校への協力など、引き続き教育の場としての美術館の特色を打ち出していく。

また、地域とのつながりを引き続き重視し、より地域に親しまれる美術館を目指すとともに、財団他施設や民間企業との連携・協力関係を築き、事業展開の幅を広げていく。

施設の維持管理については、札幌市と協議しながら、安全性の向上と快適な環境づくりに努める。

【所管局の評価】

総合評価	改善指導・指示事項
<p>両施設とも、全般的に本市の要求水準を満たしており、適切な運営管理がなされている。</p> <p>芸術の森では、国内外の作品を楽しめる多彩な展覧会や野外美術館を活用したイベントの実施により、入館者が60万人を超え、過去最高の総来園者を記録した。</p> <p>彫刻美術館では、「フィン・ユール展」の入館者数が多かった。多彩な展覧会を開催する等、市民に文化芸術に親しむ機会を提供していることについて高く評価できる。また、野外彫刻の保全について、市民へのセミナーを開催し、啓発活動を実施した点も高く評価できる。</p> <p>芸術の森の収支状況については、全体としてマイナス決算となっているものの、民間助成金の獲得や入館者の増加による利用料金の増収により、前年比より改善されている。安定的な施設運営を行っていくために、今後も、緻密な事業計画の作成や経費削減などに取り組んでいく必要がある。</p>	<p>芸術の森、彫刻美術館ともに、新型コロナウイルスの影響を受けて一部中止となった事業はあったものの、工夫を凝らした事業を数多く実施した結果、芸術の森については総入館者数が60万人を超え、過去最高を記録し、彫刻美術館については来館者数が9,000人を超え、計画を上回っており、両施設とも高く評価できる。</p> <p>国が示す「新しい生活様式」や北海道が示す「新北海道スタイル」を踏まえた十分な感染症対策を講じながら、今後も、魅力ある多彩な事業の実施に努めていただきたい。</p> <p>経営面においては、経費削減や自主事業収入の向上に引き続き努めていただきたい。</p> <p>利用者の安全確保については、定期的な点検及び維持管理、委託業務等の適切な監督・履行確認等の徹底を図ること。</p> <p>また、経理関係事務の再点検、管理監督者の役割及び意識の徹底、適切なサイクルでの配置転換、コンプライアンス研修の実施、財団所管の実行委員会に対する内部監査の実施、これらの取組状況の報告については、引き続き取り組むこと。</p>